

災害時の緊急情報をより早く、確実に提供

近い将来に発生が懸念されている東南海・南海地震などの大規模災害や近年多発する集中豪雨（ゲリラ豪雨）による被害などさまざまな災害が起こることが想定されます。町では、町民の皆さんに災害発生にかかる防災情報をより早く、確実に提供することを目的に、田原本町デジタルMCA同報通信システム（情報を音声で伝達するシステム）を町内46カ所に設置しました。そこで、同システムの概要を紹介しますので、災害時の情報伝達の経路を確認しておきましょう。

【総務課安全防災係 ☎34・2059】

大規模災害時に、避難勧告や避難指示などを音声で伝達

「田原本町デジタルMCA同報通信システム」は、MCA無線を使用する同報系通信システムであり、町役場に親局、指定避難所や公園などの公共施設などに子局を設置しました。

このシステムは、大規模災害時に、町民の皆さんに避難勧告や避難指示、地震情報などの重要な情報を音声で伝達するシステムで、親局から発信された情報を、各子局のスピーカーを通じて

て放送することができます。

さらに、ライフラインが途絶えた際も、子局の無線機を使用し、親局へ連絡することができるとなる双方向の通信機能も備えています。このシステムと従来からの広報を併用することにより、災害時の緊急情報をより早く、確実に提供することが可能になります。

放送を聞き逃しても大丈夫

放送を聞き逃した場合、次の電話番号で放送内容の確認ができます。

☎32・6226（24時間自動応答）



災害時の緊急連絡用として、高い有効性、信頼性がある

MCA無線とは、800メガヘルツ帯のデジタル電波を多数の利用者が共同で使用する業務用移動通信システムであり、陸上移動通信分野（運輸・物流業務、バス・タクシー業務など）において広く利用されています。

安定性、経済性、利便性に優れ、高度な機能を有しているため、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などの過去の大規模災害時においても、混信や通

Vol. 27

町長日記

青少年健全育成の集い



田原本町長 寺田 典弘

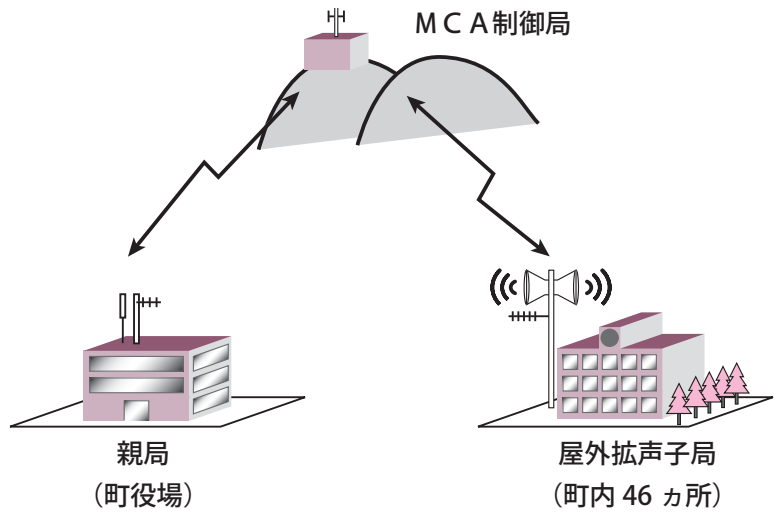
3月4日に青垣生涯学習センターで青少年健全育成の集いが行われた。この取り組みは子供会活動や地域の行事を通して心豊かでたくましい子どもを地域ぐるみで育てようとして行っている。今年も青少年健全育成推進地区に選ばれた、新阪手、室町三丁目、秦楽寺三笠、大安寺の五つの自治会と子供会が一年間を通じた活動を実践発表してくれた。

どの自治会も、お母さん達が司会進行し、子供達が地域のお祭り、老人会との交流、ラジオ体操、日帰り研修などの取り組みを説明してくれた。発表してくれた子は六年生だけでなく一年生も含めた各学年の児童がいたようだが、みんな臆することなく立派に発表してくれた。なかなか大人でも八百席ものホールで話をするというのは緊張する

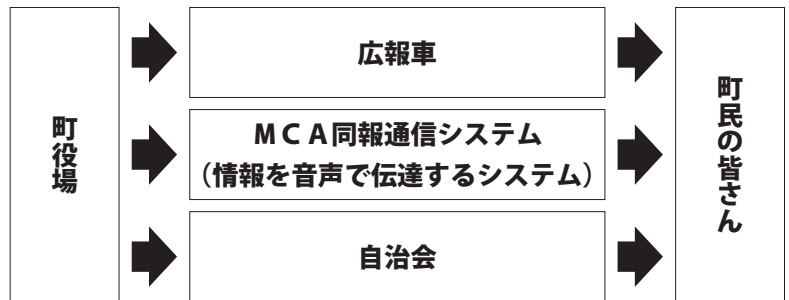
屋外拡声子局の設置場所一覧

設置場所	設置場所	
北校区	河川防災ステーション	大安寺公民館
	北小学校	田原本園西側町道
	北中学校	中央体育館
	新阪手児童公園	はせがわ展望公園 (森と泉の広場)
	西代大字公園	東小学校
	はせがわ展望公園 (出合いの広場)	ふれあいセンター
	はせがわ展望公園 (みちくさ広場)	大網河川公園
	八田河川公園	佐味児童公園
田原本A校区	磯城野高校	十六面公民館
	田原本小学校	第二体育館
	田原本第2児童公園	町資材置場
	田原本中学校	平野小学校
	青垣生涯学習センター	松本公園
	阪手二丁池北	満田榎原バイパス側道
田原本B校区	旧保健センター西館	南薬王寺第1公園
	浄化センター	杵都岐神社 (矢部)
	西八尾第1公園	高等養護学校
	富都神社(富本)	ザリガニ公園
	宮古池北	千代公苑西側町道
	八尾第2児童公園	新木第1公園 (たんぼぼ公園)
東校区	味間地内町道	八條公民館
	阿部田公園	南小学校
	笠形池北	南千代第1公園

田原本町デジタルMCA同報通信システムのしくみ



緊急情報伝達の経路



信の途絶がなく、災害時の緊急連絡用として、その高い有効性、信頼性が実証されています。

災害発生時は、
落ち着いた行動を

町では災害時の避難情報などを伝達するため、上記のような手段を整備しています。

しかし、災害発生時は状況によっては発表が遅れたり、呼びかけが届かない、また噂などで混乱する場合があります。

そのため、災害発生時は、テレビやラジオ、インターネットなどから自主的な情報収集をし、落ち着いた行動をお願いします。

ものだし、滅多に経験できるものでもない。「百聞は一見にしかず。百見は一考にしかず。百考は一行にしかず。」という。小学生の頃からこのような体験をさせることは大変良いことだと思ふ。しかし一番緊張していたのは、司会をしていたお母さん達だったかもしれない。

二部ではたわらもと吹奏楽団の演奏と田中コーラス部、町内三つの合唱団発表自治会、子達による合唱で会場全体が盛り上がった。指揮をされていた吉田さんによれば、たわらもと吹奏楽団には、十四歳から七十歳代の人まで多様な人が在籍しておられる。もちろん利益追求ではなく、音楽という接点だけで集まり、仲間として共に同じ時間を共有し、楽しんでおられる。素晴らしいことだと思ふ。

また、昨年のも東日本大震災の時でも一義的に必要なのは、空腹を癒す水、食料であり寒さを忍ぶ毛布であり雨露から身を守る家屋であった。しかし疲労した被災者の心を芯から癒してくれたのは、音楽や映画、子達の書いた絵や壁新聞といった文化ではなかったのか。昔から洋の東西を問わず、音楽のない地域はない。どこの国に行っても、その国独特の音楽が存在する。とするならば音楽などの文化は、人間が生きていく上での必需品のような気がする。とても素敵な時間をくれた皆様から感謝申し上げます。